

注腸透視検査

検査方法

バリウムを使用して大腸の粘膜や形状をみる検査です。
肛門からバリウムと空気を送り込み、撮影台の上で色々な方向に体位変換していただき撮影します。ポリープ、がん、大腸炎等の病気がないか調べる目的です。

検査時間

おおよそ30分です

その他・注意事項

- 前日は食事制限を行い、下剤を飲み大腸をよく観察できる状態にします。
※腸内がきれいにならない時は検査当日浣腸しますので、便の出が悪い場合は来院時看護師にお伝えください。
- 金属(チャック、ホック等)やプラスチック(ボタン等)を外し検査着に着がえていただきます。
- 検査時、腸の動きを一時的に抑えるための注射をします。
※緑内障、前立腺肥大、心臓疾患、膀胱炎をお持ちの方はお知らせ下さい。
※注射の作用により目のかすみ、口の渇き、オシッコが出にくくなる場合がありますが、通常1~2時間で症状は消失します。
※できるだけ、お車の運転は避けてください。
- バリウムによる副作用として、アレルギー症状が出る場合があります。以前に下記のような症状が現れた方は担当者にお知らせください。
(じんましん、気分が悪い、顔が青い、手足が冷たい、喉が詰まる、息苦しい、息がしにくいなど)